

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
１ 情報の収集と共有化	・ 広報誌の発行	・ 広報誌の発行 年２回発行し地域情報を発信した。	Ｓ	・ 広報誌の発行 年２回発行し地域情報を発信する。	・ 広報紙の内容の充実
３ 高齢者が集う場の開放・ 拡充・情報提供	・ いきいきサロンの実施	・ いきいきサロン 鎌取団地サロン(週 １ 回) 鎌取スポーツサロン(週 １ 回)	Ｂ	・ いきいきサロン 鎌取団地サロン(週 １ 回) 鎌取スポーツサロン(週 １ 回) 平山第一自治会(週 １ 回) (Ｒ７ 年度に２サロン追加予定)	・ 他の町内・自治会も実施出来ないか検討 ・ サロンの宣伝方法の検討
４ 障害者(児)が集う場所 の開設・拡充・情報提供	・ 障害者、障害者施設に関する学習会 の実施	・ 障害者に関する学習会を開催し、理解 を深める。 ・ 障害者施設を訪問し、障害者の理解を 深める。 (前期 ・ 訪問先選定) (後期 ・ ４箇所訪問)	Ｂ	・ 障害者に関する学習会を開催し、理解 を深める。 ・ 障害者施設を訪問し、障害者の理解を 深める。 (４箇所を訪問予定)	・ 訪問先の確保
５ 子育て中の親や子ども が集う場の開設・拡充	・ 子育てサロンの実施	・ 子育てサロン 保健福祉センターで(月 １ 回)実施	Ａ	・ 子育てサロン 保健福祉センター(月 １ 回)	・ 継続した人員の確保
１６ 見守り活動の推進	・ 地区連協と連携した見守り活動の推 進	・ 訪問や外からのさりげない見守り活 動の実施 (平山第一、鎌取、辺田、平山)	Ｂ	・ 訪問や外からのさりげない見守り活動 の実施 (鎌取 、 平山)	・ 責任者が高齢化で後継者がいないので 継続が困難

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
20 ボランティアの確保	・ボランティア活動に関する啓発活動	・町内会の回覧板でのボランティア募集	C	・町内会の回覧板でのボランティア募集	・高齢化が進みボランティアの確保が年々厳しくなる

まち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 平山地区町内自治会連絡協議会

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
２ 子ども達の集いの場所の提供・情報提供、地域と学校との交流	平山小学校のセーフティウォッチャーを実施	毎週持ち回りで登下校時の見守りを実施	Ａ	毎週持ち回りで登下校時の見守りを実施	セーフティウォッチャーの確保
６ 地域の行事への積極的参加の呼びかけ、文化の伝承 ８ 老人クラブの活性化 ９ 町内自治会の活性化	・シニアクラブ(自治会の老人会)に地域行事への参加を呼び掛ける ・地域活動を通じて町内自治会への参加を呼びかける	餅つき大会 花いっぱい運動 毎月ゴミ拾い 盆踊り・お祭り	Ａ	餅つき大会 花いっぱい運動 毎月ゴミ拾い 盆踊り・お祭り餅つき大会	年々町内自治会を辞めていくところが見受けられるためその対策
１４ 身近な防犯、安全対策	防犯青色パトロールの実施	月４回９町内自治会の防犯パトロールを実施	Ａ	月４回１０町内自治会の防犯パトロールを実施	参加人員の確保
９ 町内自治会の活性化 １ 情報の収集と共有化	① 地区内町内自治会の定例会を開催 ② 各単位町内会の役員が会議を開催し、回覧板の回議等について協議	① ２月に１回定例会を開催 ② 毎月会議を開催	－	① ２月に１回定例会を開催 ② 毎月会議を開催	① 継続していく ② 回覧板の内容をよく理解してもらうこと
１６ 見守り活動の推進	地区部会を連携した見守り活動の推進 (各単位町内会で７５歳以上単身高齢者宅を訪問)	コロナのため活動休止中	－	コロナが落ち着いてきたので活動を検討する。	実施した時の課題等検討

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 第５０１地区民生委員・児童委員協議会

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
１ 情報の収集と共有化	１ 平山地区部会の広報紙「ネットワークふれあいニュース」を年２回、発行する。 各専門委員会の活動状況を知らせる。(回覧板)地域イベントの紹介。 交流を図る支援。	１ 福祉ネットワーク委員会は、「ネットワークふれあいニュース」を年２回、発行した。(７・１２月) 編集会議年６回 (６～８月、１０～１２月 １１名)	Ａ	●福祉ネットワーク委員会は、「ネットワークふれあいニュース」を年２回、発行する。(７・１２月) 編集会議年６回(６～８月、１０～１２月 １１名)	◎親しみやすい新聞の名称へ変更、各イベントなどに取材に行き、ニュースを届けていきたい。
２ 子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流	２-①平山小学校との情報交換を実施する。 ５０１・５０８ 地区の情報交換を実施する。 ２-②誉田・平山地区(５０１・５０６・５０７)の幼稚園、保育園の園長との連絡会議を実施し、連携を深める。 ２-③有吉中学校区青少年育成委員会へ所属し活動することで情報交換や連携を深める。	２-①平山小学校と民生・児童委員の会議を開き、子ども達を理解し見守った。 (平山小図書室 ８月実施 １２名) ２-①５０１・５０８ 地区の情報交換会は、平山小・有吉小・扇田小の校長も参加して児童の様子を確認できた。(８月実施) ２-②誉田・平山地区(５０１・５０６・５０７)の幼稚園、保育園の園長との連絡会議を実施し、連携を深めた。(１１月実施) ２-③有吉中学校区青少年育成委員会へ所属し『地域の子どもは地域の大人全体で育てる』をスローガンに活動した。	Ａ	●平山小学校と民生・児童委員の会議を開き、子ども達を理解し見守る。 (平山小図書室 ６月実施 １２名) ●５０１・５０８ 地区の情報交換会は、平山小・有吉小・扇田小・有吉中の校長も参加して児童の様子を確認する。(８月実施) ●有吉中学校区青少年育成委員会へ所属し『地域の子どもは地域の大人全体で育てる』をスローガンに活動する。	◎幼稚園・保育園・小学校との連携がとれると地域の子育て家庭への支援をさらに充実していけると思われる。
３ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供 (重点取組項目)	３ 平山地区部会「ふれあいいきいきサロン」への更なる支援活動を実施する。	３ 高齢者福祉委員会は、後期に会議やいきいきサロンでｅスポーツをした。	Ｂ	●高齢者福祉委員会は、「ふれあいいきいきサロン」をけやき園・緑苑の施設長も加わった １１名で保健センターで実施し活動する。	◎平山地区部会は、令和４年度からの発足であり、地域に合う計画を立てるための各専門部会は、模索しながら活動を始めている。
４ 障害者(児)・その家族が集う場の開設・拡充・情報提供	４ 平山地区部会は、障がい者を理解するための学習会を開催したり、共に行事に参画したり更なる支援活動をする。	４ 障がい者福祉委員会は、後期に会議や施設へ慰問品を届ける活動をした。	Ｂ	●障がい者福祉委員会は、障がい者を理解するための学習会、施設訪問を通して、共に行事に参加して活動をする	◎平山地区部会は、令和４年度からの発足であり、地域に合う計画を立てるための各専門部会は、模索しながら活動を始めている。
５ 子育て中の親や子どもが集う場の開設・拡充 (重点取組項目)	５-①子育てサロンへの協力 ５-②平山地区部会「ふれあい子育てサロン」への更なる支援活動を実施する。	５ 主任児童委員が中心で民生委員・児童委員 ０Ｇと地域協力員で実施し、子育てに関するアドバイスをを行った。 ５-①子育てサロンへの協力を行った。 (年 １０回 ４月～７月、９月～２月) ５-②平山地区部会と協働で子育てサロンの運営を行った。	Ａ	●平山地区部会と協働で子育てサロンの運営を行う。 ●主任児童委員が中心で民生委員・児童委員 ０Ｇと地域協力員で実施し、子育てに関するアドバイスをを行う。 ●子育てサロンへの協力を行う。 (年 １０回 ４月～７月、９月～２月)	◎子育てサロンへの協力 ◎新興住宅地が増え、参加者が広範囲から来るようになった。 ◎乳児が増えたことによって母親や父親同士の情報交換が出来ようになったのでさらに交流を深めるように活動していきたい。

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
12 防災訓練の充実、意識啓発、体制整備	12-①災害時の平山小避難所開設訓練に向けての運営委員会を開催する。 12-②体制を充実させる。	12 平山小(図書室・体育館)で避難所の運営方法を話し合い、訓練し緊急時の物品の確認をする。(年2回8月・9月) 運営委員(市職員・各町内役員・民生委員24名)トイレ設置訓練をした。	A	●平山小(図書室・体育館)で避難所の運営方法を話し合い、訓練し緊急時の物品の確認をする。(年2回7月・8月) 運営委員(市職員・各町内役員・民生委員24名)	◎避難者行動要支援名簿は、毎年配布されているが、災害時に機能できるのかは疑問である。
14 身近な防犯、安全対策	14-①有吉中学校のあいさつ運動への協力。 14-②有吉中学校の環境整備の協力。(5月・10月花植え)	14-①508地区民児協と連携し、有吉中学校のあいさつ運動を行った。(有吉中正門他) ※緑区の理事会(月曜日)の翌週の月曜～金曜の平日5日間をあいさつ運動として、通年(夏休みを除く)実施した。 7:50～8:10実施 (R5)2023年4月～(R6)2024年3月 14-②有吉中学校の環境整備(5月・10月花植え) 防犯対策として花を植える事により、町を明るく景観をよくする。	A	●508地区民児協と連携し、有吉中学校のあいさつ運動を行う。(有吉中正門他) ※緑区の理事会(月曜日)の翌週の月曜～金曜の平日5日間をあいさつ運動として、通年(夏休みを除く)実施している。 7:50～8:10実施予定 (R6)2024年4月～(R7)2025年3月 ●有吉中学校の環境整備(5月・10月花植え) 防犯対策として花を植える事により、町を明るく景観をよくする。	◎有吉中学校の挨拶運動は、508地区民児協と連携して活動できた。 ◎生徒が声を出して挨拶をするようになってきた。 ◎学校の先生や508地区民児協との横の繋がりが深まった。
16 見守り活動の推進	16-①単身世帯高齢者の見守り活動の実施 例年実施している高齢者の実態調査をするとともに単身世帯高齢者の見守り活動を行う。 16-②地区の見守り活動団体との連携 地域で活動している見守り活動団体への協力を行う。	16-①令和5年度は、高齢者実態調査(5・6・7月) ○敬老会中止のお知らせ(7月) ○平山地区敬老会実行委員会による中止に伴うお祝い品のタオル配布 (ポスティング9月各町内役員25名) 16-②地区の見守り活動団体の定例会に参加し、情報共有やアドバイスを実施した。 16-②保健センター・公民館で民生委員・町内役員・ボランティア・社協・あんしんケアセンター等と共に会議のみ実施。 (5・7・9・12・2月)10名程参加した。 ○敬老祝い金・品を配布する。(9月)	A	●令和5年度は、高齢者実態調査(5・6・7月) ●敬老会開催(有無)の会議をする(6月) ●地区の見守り活動団体の定例会に参加し、情報共有やアドバイスを実施する。 ●保健センター・公民館で民生委員・町内役員・ボランティア・社協・あんしんケアセンター等と共に会議をし月1回程度、単身高齢者世帯の見守りを行う。 (5・7・9・12・2月) ●敬老祝い金・品を配布する。(9月)	◎見守り活動団体が行っている活動は、今年度から実施の方向である。 ◎2ヶ月に1回程開催される各団体の定例会議には、民生委員が参加し、情報交換を行ってきた。 ◎見守り活動はボランティアの高齢化の問題も出てきており、若い世代の取り込みが課題である。 ◎外出困難者・自宅療養中の家族・障がい者(児)の家族等の支援については、支援の手が行き届いておらず、何も確立されていない。特に家族のみに負担がかかるため、地域での早急な取り組みが必要であるように思われる。

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 千葉市社会福祉協議会（生活支援コーディネーター緑区）

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
１ 情報の収集と共有化	・集いの場および生活支援サービスの情報収集を行い、千葉市の管理システム「生活支援サイト」に掲載し、情報を公開する。 ・地域および関係機関に、情報提供を行う。	・地域資源調査を行い、生活支援サイト情報の新規登録および更新作業を行った。（６～１２月） ・地域活動および各関係機関の会議に参加し、情報提供を行った。	Ａ	・地域資源調査を行い、生活支援サイト情報の新規登録および更新作業を行う。（６～１２月） ・地域活動および各関係機関の会議に参加し、情報提供を行う。	・「生活支援サイト」未掲載の活動を把握する。 ・「生活支援サイト」の周知 ・情報共有の手段、方法
３ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	・集いの場の立ち上げを支援する。 ・集いの場の活性化および運営を支援する。	・ライブアート春の道（集いの場）の立ち上げ支援を行った。 ・出張講座情報の紹介を行い、５/７・７/８ 鎌取町長寿会、６/８ おゆみ野地区部会いきいきサロン、６/１３・１１/７ やまぼうしたすけあいの会、１０/３ はなまるクラブにて、出張講座が開催された。	Ａ	・新しい活動の立ち上げ支援を行う。 ・集いの場の活性化および運営支援を行う。	・担い手の高齢化（担い手不足） ・活動場所の確保 ・活動継続のための役割分担 ・運営支援
１０ 地域活動の場の確保	・企業・団体等による活動場所の提供に関する情報を把握し、周知する。	・企業・団体等による活動場所の提供に関する聴き取りを行った。（けやき園、ほんだくらぶ）	Ｂ	・企業・団体等による活動場所の提供に関する情報を把握し、地域にて周知を行う。	・社会福祉法人における感染症対策を踏まえた意向の確認 ・企業・団体等への働きかけ
１５ 助け合い活動の推進・外出困難者への支援	・助け合い活動の状況を把握する。 ・外出に関しての支援ニーズを把握する。 ・移動販売サービスの状況を把握する。 ・新たなサービスの創出。	・支援が必要な方へ情報提供を行った。 ・移動販売を終了する業者に他の移動販売業者を繋ぎ、販売先の引継ぎを行った。 ・移動販売担当者、利用状況、地域のニーズ等について、情報を共有した。 ・１２/１１ 第１層生活支援コーディネーター協議体にて、交通政策課による高津戸町での社会実験について、情報共有を行った。	Ａ	・あんしんケアセンターや民生委員と連携し、地域の支援ニーズを把握する。	・自治会への働きかけ ・支援ニーズの把握 ・行政との連携 ・多様なサービスの情報収集、情報提供 ・新たなサービスの創出

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
16 見守り活動の推進	・見守り活動および対象者の状況を把握する。	・鎌取みまもーる（隔月）、あすみ見守り隊（毎月）の定例会に出席し、見守り活動および対象者の状況を把握した。 ・R5.12 鎌取みまもーるによるアンケート調査の集計および集計結果報告資料を作成した。	B	・定例会に出席し、見守り活動の状況および見守り対象者の状況を把握する。 ・見守り活動団体によるアンケート調査の集計および集計結果報告資料作成する。	・コロナの影響で休止していた活動が再開できない。（担い手の高齢化、環境の変化） 活動再開の情報提供や支援が必要。 ・自治会へ働きかける。 ・無理のない見守り方法の検討 ・SNS等の活用
17 健康づくり支援	・シニアリーダー活動の支援を行う。 ・健康課と連携して、地域住民の健康づくりを支援する。	・シニアリーダー連絡会（毎月）への出席および体操教室の訪問により、活動状況、課題を把握した。 ・地域活動団体について健康課との情報共有を行なった。	A	・シニアリーダー連絡会に出席し、活動状況および課題の把握に努める。 ・シニアリーダー体操教室を訪問し、参加者の様子、活動の様子を把握する。 ・地域活動団体について健康課との情報共有を行い、地域住民の健康づくりを支援する。	・地域へ健康課事業を周知し、健康意識を高める。 ・健康を保持する活動を周知する。
18 地域の課題解決に向けた連携	・各関係機関との情報共有およびネットワークの構築を行う。	・各関係機関の主催する会議に参加し、情報共有を行なった。 ・12/11 緑区第1層生活支援コーディネーター協議体を開催し、情報共有および意見交換を行なった。 ・緑区生活支援コーディネーター定例会（毎月）を開催し、情報共有を行なった。	A	・各関係機関の主催する会議に参加し、情報共有を行う。 ・緑区第1層生活支援コーディネーター協議体を開催し、情報共有および意見交換を行う。 ・緑区生活支援コーディネーター定例会（毎月）を開催し、情報共有を行う。	・関係機関との地域課題の共有、意識の統一を図る。
20 ボランティアの確保	・シニアリーダー養成講座への協力 ・ちばし地域づくり大学校への協力 ・社協ボランティア担当との連携	・7/20・11/17 シニアリーダー養成講座にて、講話「地域のささえあいづくりを支援 生活支援コーディネーター」を担当した。 ・ちばし地域づくり大学校にて、生活支援コーディネーターによる講義に参加協力した。 ・社協ボランティア養成講座(5講座)に参加した。	A	・シニアリーダー養成講座にて講話 ・ちばし地域づくり大学校に協力 ・社協ボランティア養成講座	・養成講座の参加者を増やす。 ・講座修了者を活動に繋げる。 ・既存のボランティア活動の紹介。 ・違う分野、違う世代対象等の多様な活動の情報収集。 ・学校や保育園との連携（高齢者が高齢者に対してだけでなく）

緑区支え合いのまち推進計画の取組状況（令和５年度）及び計画（令和６年度）等調査票

団体名 社会福祉法人ワナーホーム

※【達成状況の目安】Ｓ：目標を上回った。／ Ａ：概ね目標を達成した。（８～１０割）／ Ｂ：一部目標を達成した。（５～７割）／ Ｃ：大きく目標を下回った。（～４割）

取組項目 ※第５期計画の ２０の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	Ｒ５年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	Ｒ５年度 達成状況 ※Ｓ/Ａ/Ｂ/Ｃ	Ｒ６年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
４ 障害者（児）・その家族 が集う場の開設・拡充・情 報提供	ア 長期入院患者の地域生活に向け た支援	ア 通年で、主に下総精神医療センタ ーと石郷岡病院の、長期入院者の地 域移行支援を行っている。年間４５ 名の地域移行支援を行い、うち３６ 名が地域移行（退院）できた。	Ｓ (前年度の 目標を３０ 名としてい た)	ア 通年で、主に下総精神医療センタ ーと石郷岡病院の、長期入院者の地域移 行支援を行っている。年間４５名程度 の地域移行支援を行い、うち３６名の 地域移行（退院）を目指す。	長期入院患者の受け皿として、近年は 障害者グループホームが急増しており、 地域移行の実績件数の増加に現れてい る。今後は入院患者さんの希望が多いア パートの開拓に向けて、不動産業者等の 協力を得る取り組みが必要。オで示した 千葉市精神障害にも対応した地域包括ケ アシステム構築推進事業にて取り組む予 定である。
	イ 就労支援事業で製造したパンを 店舗販売、外販、納品をすること で、障害者の生活や活動に関する 認識を広める活動	イ パンの店舗販売は、ペジーブル鎌 取店にて行っている。 外部での販売は、緑区役所（週１回） 、緑保健福祉センター（月２回）と若 葉保健福祉センター（週１回）、下総 精神医療センター（週１回）、リべる たす（月２回）、アビタシオン（週１ 回）、マリア幼稚園（月２回）、県庁（月 ２回）。納品はこども病院、青葉病院 に行っている。	Ａ	イ ペジーブル鎌取店にてパンの店舗販 売。外部での販売は、緑区役所（週１ 回）、緑保健福祉センター（月２回）と 若葉保健福祉センター（週１回）、下総 精神医療センター（週１回）、リべるた す（月２回）、アビタシオン（週１回）、 マリア幼稚園（月２回）、県庁（月２回）。 納品はこども病院、青葉病院に行く。	ペジーブル鎌取店への来店者は増加傾 向にある。店先で来店者が寛いでいるこ とも増えた。今後も立ち寄りやすいパン 店舗を目指す。
	ウ 地域の行事への参加を通して、障 害者をと市民の交流を図る活動 エ 当法人が開催する行事を市民向 けに開放し、障害者と市民の交流を 図る活動	ウ 参加せず（コロナ感染対策として） エ 実施せず（コロナ感染対策として）	Ｃ	ウ 地域の行事への参加を通して、障害 者と市民の交流を図る活動 エ ワークショップ鎌取等の利用者向け にバーベキュー大会を９月下旬開催 予定。対象を地域連携推進会議に含 めることとされる「地域住民の代表 者等」とするか、一般向けに開放す るか検討中。	９月下旬に開催予定のバーベキュー大会 の対象を地域連携推進会議（障害福祉サ ービス報酬改定で開催が令和６年度は努 力義務、０話年度から義務化）の「地域住 民の代表者等」とするか、一般向けに開 放するかは検討中。

取組項目 ※第5期計画の 20の具体的な取組番号と取組名	取組の概要	R5年度取組状況 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	R5年度 達成状況 ※S/A/B/C	R6年度計画 (いつ、どこで、何を、回数、人数 等)	今後の課題
	オ 千葉県精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業並びに構築支援事業（千葉県より受託） （長期入院精神障害者の地域移行支援（退院支援）と地域生活に定着を図るための支援体制整備に係る事業）	オ 千葉県精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業 ・専門職向け地域移行支援研修（病院向け、障害福祉サービス事業所向け、グループホーム向け各1回開催） ・一般市民向け精神障害者に関する普及啓発活動は全6区で各1回開催、若年層向けは2大学3学部で実施 ・合理的配慮研修（差別防止）は専門学校、大学、企業向けに各1回	A	1 地域移行支援の普及活動 ・説明会、交流会、研修会（病院向け・相談支援や障害福祉事業所向け）の」実施 全6回程度 ・地域移行支援手順書の普及 随時 ・構築推進サポーターによるOJTの実施 2例程度 2 地域住民・若年層への広報啓発活動実施 ・市民向け普及啓発（公民館講座）各区1回（全6回） ・若年層向け普及啓発（大小中高向け研修）（全3回） 3 当事者の活動支援、ピアサポーターの活用事業 ・合理的配慮研修（企業・教育機関・福祉事業所）（全3回） ・「語れる当事者」の人材確保に向けた講座等開催（2回程度）	令和6年度は、令和5年度実績に準じた活動の予定。 若年層無け普及啓発活動について、小中高性向け研修の実施は、実施する学校の選定やアプローチ方法、アンチスティグマになりうる研修内容など検討すべき事項が多く、年度内に実現できるか不透明な面もある。